

朝練習コート割とお知らせ

(第51回石川県小学生ソフトテニス選手権大会)

① 受付前にすること(開場7:00)

- 選手、保護者応援者、監督コーチ、全ての来場者にマスク(できるだけ不織布)の持参をお願いします。
また、原則マスクの着用は個人の判断に委ねますが、**着用を求める場合があります。**

② 受付(7:50~8:30)

- 大会本部で到着受付を行います。欠席者がいる場合はご報告をお願いします。
- 参加料(1選手500円)を徴収します。おつりが出ないように、ご協力をお願いします。
- 石川県小学生ソフトテニス連盟、**令和5年度年間登録料(1クラブ2千円)**を合わせて徴収します。

③ 朝練習コート割(7:50~8:10、8:10~8:30) ※2日目のコート割は、1日目の終わりにお知らせします。

時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート
【1回目】 7:50 ▼ 8:10	能登スポ少		穴水町教室			はくい	七尾	すず
	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
	輪島		町野		とりや		宝	

時間	1コート	2コート	3コート	4コート	5コート	6コート	7コート	8コート
【2回目】 8:10 ▼ 8:30	内灘			宇ノ気	能美	津幡	河北台	
	9コート	10コート	11コート	12コート	13コート	14コート	15コート	16コート
	犀生		野々市		美川	小松荒屋	小松市教室	加賀

8:35 監督会議(中央管理棟)

8:50 会議内容を選手に伝える時間

9:00 スマート開会式(各コート第1試合の用意をした状態で場内放送による)
競技開始

※決められた時間以外での練習はできません。

※観覧席にブルーシートなどを敷いて確保する場合は、最上段は占領しないでください。(全体の通路確保)

④ 試合進行と審判について

1 試合中のサイドコーチは禁止する。

2 試合方法は、1部は予選リーグと決勝リーグと順位戦、2部はトーナメントを実施する。

3 マッチ数は、次のとおりとする。

- ★ 1部 予選リーグ 7ゲームマッチ
ベスト8を決める試合 7ゲームマッチ
決勝リーグ 7ゲームマッチ
順位戦(ベスト16まで) 5ゲームマッチ(6/11 北信越小学生選手権大会予選)
- ★ 2部 トーナメント 5ゲームマッチ

- 4 ベンチは若い番号のペアが、中央スタンド側とする。
- 5 整列はサービスラインとし、正審の「集合」の合図でネット前まで進み挨拶を行う。
- 6 マッチ開始前の練習（乱打）は1分以内とする。2試合目以降は、審判準備の時間を使って行う。
- 7 チェンジサイズの場合、ポイント終了から1分以内に次のポイントを開始する態勢に入る。
（競技規則第15条より） ※コーチングは45秒程度
- 8 マッチ終了後、勝者ペア（選手）は採点票を大会本部まで持ってくる。 ※ 勝者サイン欄に記入する。
- 9 審判は、次のとおりとする。

【1部 男子の部と女子の部】

- ・予選リーグは、リーグ内審判で行います。
3ペアリーグの場合、試合のない残り1ペアが審判を行います。
4ペアリーグの場合、試合のない残り2ペアから1名ずつ出し合って行います。
- ・決勝リーグは、リーグ内審判で行います。
試合のないペアから1名ずつ出し合って審判を行います。（別紙、進行予定表のとおり）
- ・予選リーグ後のベスト8を決める試合は、本部指定します。
- ・順位戦の初戦は本部指定とし、以降は敗退ペアが次の試合の審判を行います。

【2部 男子の部と女子の部】

- ・トーナメントは、初戦は本部指定とし、以降は敗退ペアが次の試合の審判を行います。
- ・審判補助として、ルールに精通した指導者、または保護者が審判台の横で必ず補助してください。
（公認審判員資格2級以上が望ましい）

【共通】

- ・審判を行う選手は、「大きな声でコールすること」と「正審と副審の判定区分」を守り、自信を持って行いましょう。 ※ マイ鉛筆（えんぴつ）を使用して採点票に記入する。

- 10 応援は、過度のかけ声や大声、応援歌を禁止とする。
また、保護者応援者の皆様はサイレント観戦のご協力をお願いします。（拍手は可）

⑥ その他

- ・監督コーチの服装は、日本連盟公認メーカーのゲームシャツを着用すること。（Tシャツ不可）
- ・昼食時間は、1部は設けます。2部は設けません。
- ・観客席はゆずり合って使用すること。ゴミは必ず持ち帰ること。
- ・能都健民テニスコートを含む藤波運動公園内は、全て禁煙です。
- ・お帰りの際は、忘れ物チェックを必ずお願いします。 ※ チームの本部挨拶はご遠慮ください。
- ・感染防止対策の徹底を常に心がけて行動すること。（選手、保護者応援者、監督コーチ、役員共通）